# 小学校国語科低学年「読むこと」における 事柄の順序をとらえる力を伸ばすための学習指導の工夫 一単元を通して事柄の関係図(ルーツマップ)づくりを取り入れることで一

広島市立観音小学校教諭 後藤にいな

## 研究の要約

本研究は、小学校国語科低学年「読むこと」における事柄の順序をとらえる力を伸ばすための学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、本研究の「事柄の順序」を「文章の中の具体と抽象の関係」と定義した。この具体と抽象の関係をとらえるために、事柄の順序を並べ替えて図式化することが有効であると考えた。そこで学習指導の工夫として、事柄の順序を図式化する「事柄の関係図(ルーツマップ)づくり」を単元を通して取り入れ、その有効性を検証した。

その結果,児童に事柄の順序の概念が育ち,説明的な文章を読む際に事柄の順序について意識するようになった。このことから,学習指導の工夫として単元を通して「事柄の関係図(ルーツマップ)づくり」を取り入れたことは,説明的な文章の事柄の順序をとらえる力を伸ばすことに有効であったと考える。

キーワード: 事柄の順序、関係図、具体と抽象の関係、説明的な文章の解釈

# I 問題の所在

平成26年度の「基礎・基本」定着状況調査の, 国語科「読むこと」の領域の広島市の通過率は 各領域の中で最も低くなっている。その中でも 説明的な文章の解釈に関する設問の通過率は, 段落相互の関係を問う設問で39.6%,文章の構 成を問う設問で50.7%と全体的に低い結果と なっている。所属校の結果も同様に「読むこと」 及び説明的な文章の解釈における設問の通過 率は低く,説明的な文章の解釈の力に課題があ ることが明らかになった。

自己の実践を振り返ると、説明的な文章を扱う学習において文章の内容に着目した指導が中心となっていた。指導事項を意識したつながりのある学習を単元の中でうまく構成することができていないため、児童の力を十分に伸ばすことができていなかった。

そこで本研究では、中学年で説明的な文章の「段落相互の関係をとらえる力」を付けるために、低学年の段階でその基礎となる「事柄の順序をとらえる力」を伸ばすことが肝要であると考え、そのための学習指導の工夫について探ることとした。

# Ⅱ 研究の目的

小学校国語科低学年「読むこと」における説明的な文章の事柄の順序をとらえるための学習指導の工夫を探る。

# Ⅲ 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究仮説の設定
- 3 検証授業の計画と実施
- 4 検証授業の分析と考察

# Ⅳ 研究の内容

# 1 研究主題に関する基礎的研究

#### (1) 事柄の順序について

文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』 (平成 20 年)では、低学年の説明的な文章の解釈に関する指導事項として「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」」と示されている。また、市毛(2002)は、事柄の順序とは「概念の大小の関係による分類だけでなく、並列関係になる概念など、具体と抽象の位置づけ」。2と述べている。

このことから本研究における「事柄の順序」を「文章の中の具体と抽象の関係のこと」と定義し、それをとらえる力を伸ばすための学習指導の工夫について研究を進める。

# (2) 事柄の関係図づくりについて

市毛(2002)は、「順序を考える問題は、図に表すなどして前後の関係をつかむとよい。」<sup>3)</sup>と順序を図式化してとらえることの良さについて述べている。また、「並べ替えという操作をしながら順番を考えることは、順序という基礎的な考え方を鍛える訓練になる」<sup>4)</sup>と、順序をとらえるために並べ替えという操作活動が有効であるとも述べている。

以上のことから、本研究では単元を通して並べ替えをしながら事柄の順序を図式化する「事柄の関係図づくり」を取り入れることとする。

## 2 研究仮説の設定

小学校国語科低学年「読むこと」の学習において、単元を通して事柄の関係図づくりを取り入れた学習指導を行えば、説明的な文章の事柄の順序をとらえる力を伸ばすことができるであろう。

# 3 検証授業の計画と実施

# (1) 期間

平成 27 年 11 月 30 日~12 月 14 日

## (2) 対象

小学校 第2学年 27名

# (3) 内容

指導事項:読むこと イ

時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

単元名: あなのやくわりを考えよう「あなのやくわり」

教 材 文:「いろいろなふね」(東京書籍)1年下

「あなのやくわり」(東京書籍)2年下

自作教材

言語活動:事物の仕組みなどについて説明した

本や文章を読むこと (2) ウ

## (4) 単元計画

検証授業の単元計画は表1のとおりである。

表 1 単元計画

次	時	学習活動			評価					
1	HAT.	子自伯刺			関	読	言	評価規準	評価方法	
	1	<ul><li>○ 事前テストを行う</li><li>○ 単元の見通しをもつ</li><li>○ ルーツマップタイム</li><li>基礎練習をする</li></ul>			0		0	ひみつあつめシート に,今日の学習に対する 自分の感想を記述してい る	ひみつあつ めシート	
	2	<ul><li>○ 既習教材「いろいろな ふね」のキーワードカー ドを、仲間分けをする</li></ul>	並行読書(世	ーツマップタ	0			「いろいろなふね」の キーワードカードのこと ばを根拠にして仲間分け している	カード	
	3	○ 「いろいろなふね」の キーワードカードの順序 を考えてルーツマップに まとめ、説明文のつくり について考える	活動)			0		キーワードカードの順 序を考えて、ルーツマッ プにまとめている	キーワード カード ひみつあつ めシート	
=	4	<ul><li>○ 教科書教材「あなのや くわり」の文章を根拠に して、「はじめ―中― おわり」の3つに分ける</li></ul>				0		「あなのやくわり」の 文章を根拠にして「はじ め―中―おわり」の 3 つ に分けている	カード	
	5	<ul><li>○ 「あなのやくわり」の 具体例として挙げられて いるものを見つけてルー ツマップに表す</li></ul>				0		「中」の具体例を本文 から見つけ、ルーツマッ プに並列に並べている	キーワード カード ひみつあつ めシート	
	6	○ 「あなのやくわり」の 具体例①について説明の 順序を考えてルーツマッ ブに表す	<u> </u>			0		具体例①の説明の順序 を考え、ルーツマップに 書き込んでいる	ル ーツマッ ブ ひ みつ あつ めシート	
	7	<ul><li>○ 「あなのやくわり」の 具体例②③について説明 の順序を考えてルーツ マップに表す</li></ul>				0		具体例2③の説明の順 序を考え、ルーツマップ にあてはめている	ルーツマッ ブ ひみつあつ めシート	
	8	<ul><li>○ 「あなのやくわり」の 具体例④について説明の 順序を考えてルーツマッ プに表す</li></ul>				0		具体例④の説明の順序 を考え、ルーツマップに あてはめている	キーワード カード ひみつあつ めシート	
	9	○ 「いろいろなふね」と 「あなのやくわり」の ルーツマップを比較し, 説明文のつくりについて 考える		7		0		2つのルーツマップを 比べて、説明的な文章の 構成や順序についてわか る	カード	
Ξ	10	<ul><li>○ 並行読書で選んだ説明文 「はじめ―中―おわり」の つに分け、ルーツマップに す</li></ul>	3	-		0		説明文の「はじめ―中 一おわり」を読み取っ て、ルーツマップにまと めることができる	キーワード カード ひみつあつ めシート	
	11	○ 並行読書で選んだ説明文 具体例を説明の順序を考え ルーツマップに表す				0	0	説明文の「中」の説明 の順序を読み取って, ルーツマップにまとめる ことができる	キーワード カード ひみつあつ めシート	
	12	○ 並行読書で選んだ説明文 内容やつくりを、ルーツマ ブを使って友達に紹介する	" "			0		並行読書で選んだ説明 文を、ルーツマップを使 いながら友達に説明する ことができる	キ ーワ ー ド カード ひ み つ あ つ めシート	
	13	<ul><li>○ 学習の振り返り</li><li>○ 事後テスト</li></ul>			0			これまでの学習を振り 返り 「説明名人のひみ つ」について自分の言葉 でまとめている	ひ みつ あつ めシート 事後テスト	

## (5) 指導方法の工夫

## ア 事柄の関係図(ルーツマップ)の活用

先行研究を基に、事柄の順序を図式化する、 事柄の関係図(「ルーツマップ」とする。以下同様。)を学習指導の工夫として取り入れた。(図1)

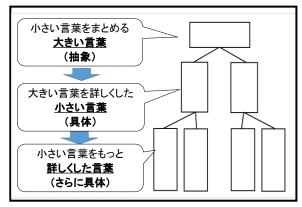


図1 事柄の関係図 (ルーツマップ)

ルーツマップとは、言葉の具体と抽象の関係を図式化したものである。 児童には「大きい(抽象) -小さい(具体) -詳しい(具体)」という言葉を使って示している。

本研究では、このルーツマップを単元を通して以下の2つの視点で取り入れることとした。

# (7) 事柄の順序の概念を育てるための教材(ルーツマップタイム教材)の取組

1つ目は、毎時間の授業冒頭10分間で使用する、事柄の順序の概念を育てるための教材(「ルーツマップタイム教材」とする。以下同様。)の取組である。これは、児童に事柄の順序をとらえるための、基礎的な順序の概念を育てることを目的として作成した。

設問内容は、本時の授業内容とつながりをも たせるようにしている。

単語の具体と抽象の関係をとらえる設問(次 頁図2)から始まり、徐々に文章の具体と抽象 の関係をとらえる設問(次頁図3)に移行して いくように難易度を設定した。また、設問の難 易度が上がる際には、手立てとして語群や並列 関係にある言葉を用意し、スモールステップで 事柄の順序の概念を育てることができるよう にした。 また、文章から具体と抽象をとらえる設問では、「はじめ一中一おわり」を書き込むこと、「大きい一小さい一詳しい」言葉に記号を付けながら読むことも、併せて継続して取り組むこととした。

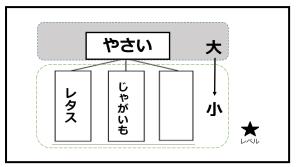


図2 ルーツマップタイム教材(難易度1)

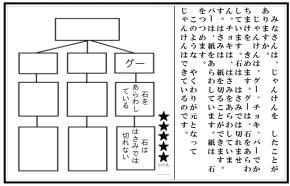


図3 ルーツマップタイム教材(難易度5)

# (4) ルーツマップづくりを取り入れた単元計画の設定

2つ目は、「ルーツマップづくりを取り入れた単元計画の設定」である。説明的な文章は一文ごとに区切り、キーワードカードに示す。これを切り分けて、事柄の順序を考えて並べ、ルーツマップを作成する。(図4)

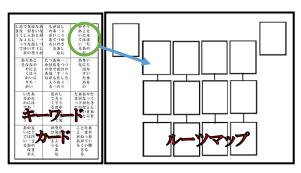


図4 ルーツマップの作成方法

このルーツマップの作成をルーツマップタイムと並行して、単元全体を通して行うように位置付けた。(前頁表1)

第一次では、事柄の順序が教科書教材と類似している既習教材「いろいろなふね」でルーツマップづくりを行う。第二次では、教科書教材「あなのやくわり」で同様にルーツマップづくりを行い、その後2つのルーツマップを比較することで、説明的な文章の事柄の順序の共通点に気付かせる。第三次では、これまでの学習で得た考え方を使って自作教材でルーツマップづくりを行う。

このように既習教材から教科書教材,自作教材へと移行しながらルーツマップを作成していくことで,スモールステップで児童の事柄の順序をとらえる力を伸ばしていくことをこの単元計画設定の目的とした。

また、このルーツマップの作成の過程で気付いた事柄の順序のひみつを、「説明文ひみつあつめシート」に、毎時間のまとめとして記述することとした。(図5)

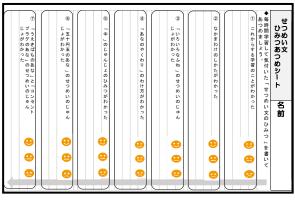


図5 説明文ひみつあつめシート

#### 4 検証授業の分析と考察

単元を通してルーツマップづくりを取り入れたことが、児童の「事柄の順序をとらえる力」を伸ばすことに有効であったかどうか、検証授業から分析と考察を行った。

## (1) 事柄の順序をとらえる力について

## ア 事後テストの分析

# (ア) 選択記号の正誤数から

事後テストでは、過去の教科書に掲載された 説明的な文章を教材文とし、事柄の順序をとら える設問を出題した。(図6)



図6 事後テスト

設問一において、正しく事柄の順序をとらえることができた児童は27名中17名であった。今回作成した事後テストからは、10名の児童について直接的に力の向上を確認することはできなかった。

#### (4) 記号を選択した理由の記述の分類から

設問三において、選択した理由の記述を類型 ごとに分類した。(表2)

表2 「答えを選択した理由の記述」分類表

我と ・日代を送択した空間の記述。 万規教					
選択記号 の正誤人数	分類記号	分類の基準	人数		
	ア	事柄の順序をとらえ,自分の言葉で理由を説明することができている	4		
正答 17名	イ	事柄の順序について意識しているが,理由の記述が十分でない	4		
	ゥ	文章の内容に着目した理由を記述している	9		
	エ	事柄の順序については理解しているが,文章の中 で正しくとらえることができていない	4		
誤答 10名	オ	文章の内容に着目した理由を記述している	ร		
	カ	記述内容が不明瞭	3		

表2から、事柄の順序を正しくとらえられなかった児童の中にも、理由の記述では、分類エのように事柄の順序を意識した理由付けをしていたり、分類オのように文章の内容を使って順序の説明をしようとしたりしている様子が見られた。その一方で、事柄の順序を正しくとらえることができても、理由の記述では、分類

イのように説明が不足していたり,分類ウのように文章の内容に着目していたりする児童がいることも分かった。

事後テストの分析から、とらえた事柄の順序を記述で説明することは難しい様子がうかが えたが、事柄の順序について意識するようになってきていると考えられる。

しかし、分類カのように事後テストで事柄の順序をとらえる力を確認できなかった児童も若干名いた。この児童の単元での学びの様子については後ほど分析で示す。

# (2) ルーツマップづくりを単元を通して取り入れた効果について

# ア ルーツマップタイム教材の有効性につい ての分析

# (ア) ルーツマップタイム教材の正答人数から

第1時から第13時までの「ルーツマップタイム教材」の正答人数を示す。(図7)

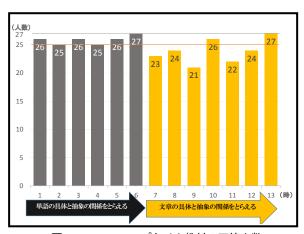


図7 ルーツマップタイム教材の正答人数

難易度が徐々に上がっているにもかかわらず,毎時間平均25名の児童が正答できている。 設問の難易度が上がった第7時以降は正答人数が減っていることから、児童にとって「文章の具体と抽象の関係をとらえる」ことは容易ではなかったと推測される。しかし正答人数が大きく落ち込んだ第9時以降、徐々に正答人数が増え、第13時には全員が正答できていることから、児童に次第に具体と抽象の概念が育ってきていることが分かる。

## (イ) A児のルーツマップタイム教材から

A児は単元中盤の第6時のルーツマップタイム教材では、単語の具体と抽象の関係をとらえることが難しい様子が見られた。(図8)しかし、ルーツマップタイム教材を繰り返す中で徐々に具体と抽象の概念が育ち、第8時では単語の具体と抽象の関係をとらえ、第11時では文の具体と抽象の関係をとらえることができるようになった。

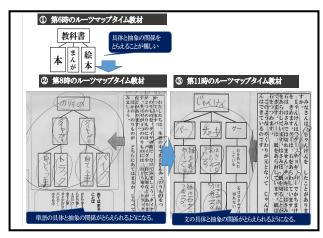


図8 A児のワークシート

このように、単元を通してルーツマップタイム教材を取り入れたことで、児童に徐々に具体と抽象の概念が育つ様子を確認することができた。

# (ウ) ルーツマップタイム教材と授業のつながり

第3時冒頭のルーツマップタイム教材と,授業内でのB児の発言を示す。(図9)B児は,文字の多さに着目して事柄の順序を考えている相手の児童に対して,授業冒頭のルーツマップタイム教材の内容を例に挙げながら具体と抽象の関係について説明している。

第3時の授業内でのB児の発言	第3時冒頭の ルーツマップタイム教材
相手の児童「(文字が多いから)このカードが上だと思う。」	動物
B児 「まん中のカードが一番下のカードを短く まとめてある。真ん中のことを一番下は もっと詳しく言うんよ。しば犬(小)の 下はレイジロウ(詳しい)でしょ。」	鳥 犬 チワワ Uば犬
※レイジロウは柴犬(クラスのキャラクター)の名前	レイジロウ

図9 第3時でのB児の発言と授業冒頭の ルーツマップタイム教材

次に、C児のルーツマップタイム教材の読み 方と、第三次での説明的な文章の読み方を示す。 (図 10)

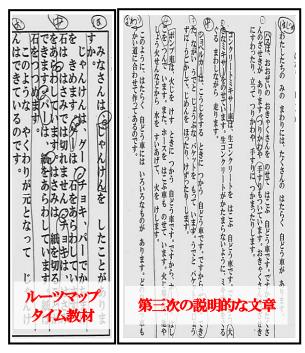


図 10 C児の説明的な文章の読み方

C児はルーツマップタイム教材と同じように、言葉の大きさごとに記号を変えて文章に書き込んでおり、事柄の順序を意識しながら文章を読んでいる様子がうかがえる。また、「はじめ―中―おわり」という文章の構成にも着目している。27 名中24 名の児童の文章にこのような順序や構成を意識した書き込みが見られた。

このように文章を読む際に、ルーツマップタ イム教材での学びを転用して考えている児童 の姿が単元の中で多く見られた。

以上のような分析から、単元を通してルーツマップタイム教材を取り入れたことは、児童の 具体と抽象の概念を育て、事柄の順序を意識することに有効であったと考えられる。

# イ ルーツマップづくりを取り入れた単元計 画の有効性についての分析

⑦ 「説明文ひみつあつめシート」の変容 毎時間の「説明文ひみつあつめシート」の記 述を「内容に着目したもの」と「事柄の順序に着目したもの」に分類し、集計したものを示す。 (図11)第一次では、内容に着目している記述が多かったが、単元が進むにつれて徐々に事柄の順序に着目した記述に変わってきていることが分かる。

とくに、第 10 時では2つのルーツマップを 比較して共通点を探す活動を経たことにより、 順序に着目した記述をする児童が増えた。また、 第 13 時には3回のルーツマップづくりを経て、 全員が事柄の順序について考えをまとめるこ とができていた。

このように単元の中でルーツマップづくり

を繰り返したことで、児童が文章の内容ではな く、事柄の順序を意識するようになってきてい る様子がうかがえる。

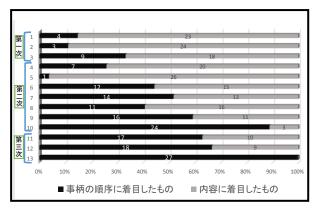


図11 「説明文ひみつあつめシート」の変容

## (4) D児の学びの分析

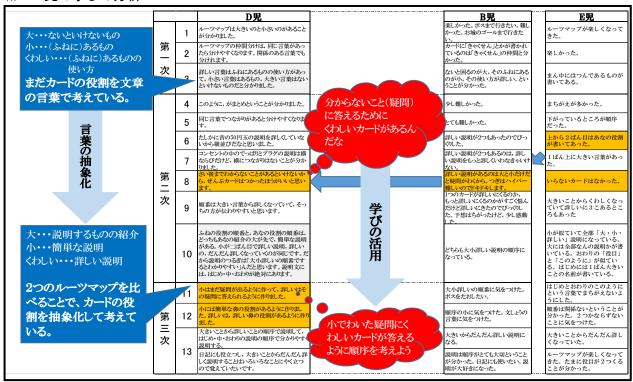


図12 D児の「説明文ひみつあつめシート」

D児の第1時から第13時までの「説明文ひみ つあつめシート」の記述を示す。(図12)

D児は、事後テストで事柄の順序を正しくとらえ、理由まで記述できた児童である。

D児は第一次の第3時では、事柄の順序について文章の言葉を使ってとらえていた。しかし、第二次の第10時では、どのルーツマップでも

当てはまるような、より抽象的な言葉で事柄の順序をとらえるようになってきていることが記述から確認できる。

第二次の第8時では、これまでの学習から「小のカード」と「詳しいカード」がどちらもあなの役割を説明するカードであることに気付いたE児から「「小のカード」があれば「詳しい

カード」は必要ないのではないか」という意見 が出された。(図 13)

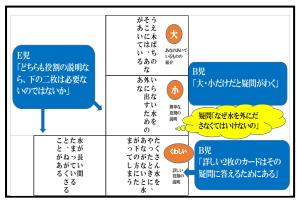


図13 第8時のカードの並びとE児B児の考え

その意見に対してB児は「詳しいカード」の 役割について「「小のカード」を読んで感じた疑 間に答えるためのカード」と説明している。こ の「疑問に答えるカードは、詳しい説明のカー ド」という考え方は、第8時に児童から初めて 出された考え方である。

D児は、このB児とE児のやりとりを見ながら、第8時では詳しいカードの役割について自分の言葉でまとめている。そして、第三次では第8時で他者から学んだ考え方を活用してルーツマップを作成している。

以上のようなことから、単元の中で繰り返し ルーツマップづくりに取り組んだことは、D児 のように、より事柄の順序について抽象化して とらえることに有効であったと言える。

# (ウ) F児の学びの分析

F児の第1時から第13時までの「説明文ひみつあつめシート」の記述を示す。(図14) F児は、事後テストで事柄の順序とらえることができず、理由の記述も不明瞭だった児童である。

F児は、単元の初めは内容に着目した記述が続いていたが、単元が進むにつれて順序や構成についての記述が増えてきている。また、「大のカード」のとらえ方が徐々に抽象化してきていることも記述から確認できる。単元の終わりには、第一次で扱った説明的な文章でも同じ考え方が適用できるか戻って考えている。



図14 F児の「説明文ひみつあつめシート」

F児が第三次で作成したルーツマップからは、具体と抽象の関係を概ねとらえていることが分かる。(図 15)

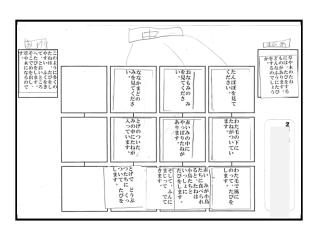


図 15 F児の第三次のルーツマップ

このことから、単元の中でルーツマップづく りを繰り返すことで、事柄の順序がとらえにく い児童にも、事柄の順序の意識が芽生えてきて いると考えられる。

以上の分析から、ルーツマップづくりを単元を通して取り入れたことは、児童が説明的な文章の事柄の順序について意識することや、事柄の順序をより抽象化してとらえていくことに有効であったと考える。

# V 研究のまとめ

## 1 成果

# (1) 事柄の関係図(ルーツマップ)によって事柄の順序を図式化したことについて

事柄の関係図によって事柄の順序を図式化して、視覚的にとらえやすくしたことは、児童が具体と抽象の関係についてとらえるための有効な手立てになったと考える。単語の具体と抽象の関係からスモールステップでとらえていったことで、児童に具体と抽象の概念が育ち、難易度の高い文章の具体と抽象の関係までとらえることができるようになったと推測される。第三次で説明的な文章を読む際に、事柄の順序や構成を意識する様子が多くの児童に見られたことは、中学年での説明的な文章の学習にもつながる成果であったと考える。

# (2) 単元を通した取組と具体と抽象の概念の 高まりについて

単元を通して同じ形式の事柄の関係図づくりを積み重ねたことにより、文章の中の事柄の順序を意識し、児童が徐々に、より抽象化した言葉で事柄の順序をとらえることができた。また、第二次の学習を第三次に生かしたり、第三次から第一次に戻って考えたりしている児童の姿が見られたことは学習のつながりをもたせた単元計画の有効性を表している。このような学習をこれからも積み重ねていくことにより、児童に付けたい力を確実に付けていくことができると考える。

## 2 課題

# (1) 事柄の関係図の取り入れ方を他の文章で活用できるようにする必要性について

本研究では、文章をカード形式にして並べ替えることで事柄の順序をとらえる活動を行った。事柄の順序をとらえる力をより高めていくためには、実生活での活用場面を想定し、手立

てとして取り入れた関係図づくりから徐々に 離れて事柄の順序をとらえていくような工夫 が必要である。

# (2) 事柄の順序を言語化する活動を取り入れることについて

事後テストでは、事柄の順序ではなく内容に着目して理由付けしている児童や、事柄の順序に着目しているが記述が十分でない児童の姿が見られ、事柄の順序を言語化することの難しさが感じられた。事柄の関係図づくりと併せて、児童自身が単元で付ける力を意識し、ペアトークや振り返りシートなどで学んだことを言語化する活動も行っていくことで、より効果的に事柄の順序をとらえる力を伸ばすことができるだろう。

# 引用文献

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領国語編』 東洋館出版社 平成 20 年
- 2) 市毛勝雄『論理的思考力を育てるドリル第1集』明治図書出版社,2002年,20 百
- 3) 前掲書, 2), 25頁
- 4) 市毛勝雄『論理的思考力を育てるドリル第2集』明治図書出版社,2002年,31頁

# 参考文献

- ① 市毛勝雄『説明文教材の授業改革論』 明治図書出版株式会社,1997年
- ② 難波博孝『1 日 10 分言語カドリル~読む~』第一学習社,2015年
- ③ 『広島県学力調査報告書』広島県教育委員会,平成27年